

「釧路湿原自然再生協議会」

第 18 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 28 年 2 月 9 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 18 回 旧川復元小委員会 －

日時：平成 28 年 2 月 9 日（火） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

----- 議 事 次 第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 平成 27 年度茅沼地区旧川復元モニタリング調査結果について
 - 2) ヌマオロ川における調査検討結果について
3. その他
 - 1) 平成 26 年度土木学会環境賞受賞について
－ 釧路湿原自然再生事業 茅沼地区旧川復元 －
4. 閉 会

----- 配 布 資 料 -----

- ・ 出席者名簿
- ・ 第 18 回 旧川復元小委員会資料
- ・ 平成 26 年度土木学会環境賞（Ⅱグループ）
- ・ 第 17 回 旧川復元小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計：48名

■個人(20名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
1	石岡 透	
※ 2	伊藤 毅	上智大学 国際教養学科 准教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
4	神田 房行	北方環境研究所所長(元北海道教育大学副学長)
5	櫻井 一隆	
6	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長(環境ファシリテーター)
9	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
10	杉澤 拓男	
11	竹中 康進	
12	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
13	野本 和宏	釧路市立博物館
14	早川 博	北見工業大学 工学部社会環境工学科 教授
15	針生 勤	一般財団法人釧路市民文化振興財団 生涯学習推進アドバイザー
16	日野 貴	
※ 17	平間 清	(有)平間ファーム
18	松本 文雄	
19	矢吹 哲夫	酪農学園大学 農食環境学群・環境共生学類 教授
※ 20	渡辺 剛弘	上智大学 国際教養学科 助教

■団体(20名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 蝦名 大也
7	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
8	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
9	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
10	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
11	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
13	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG	代表 照井 滋晴
14	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
15	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	事務局長 佐藤 吉人
16	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
17	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 船木 淳悟
18	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 平井 康幸
19	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
20	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男

※印 第7期(後期:H27.11~H28.11)新規登録

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆

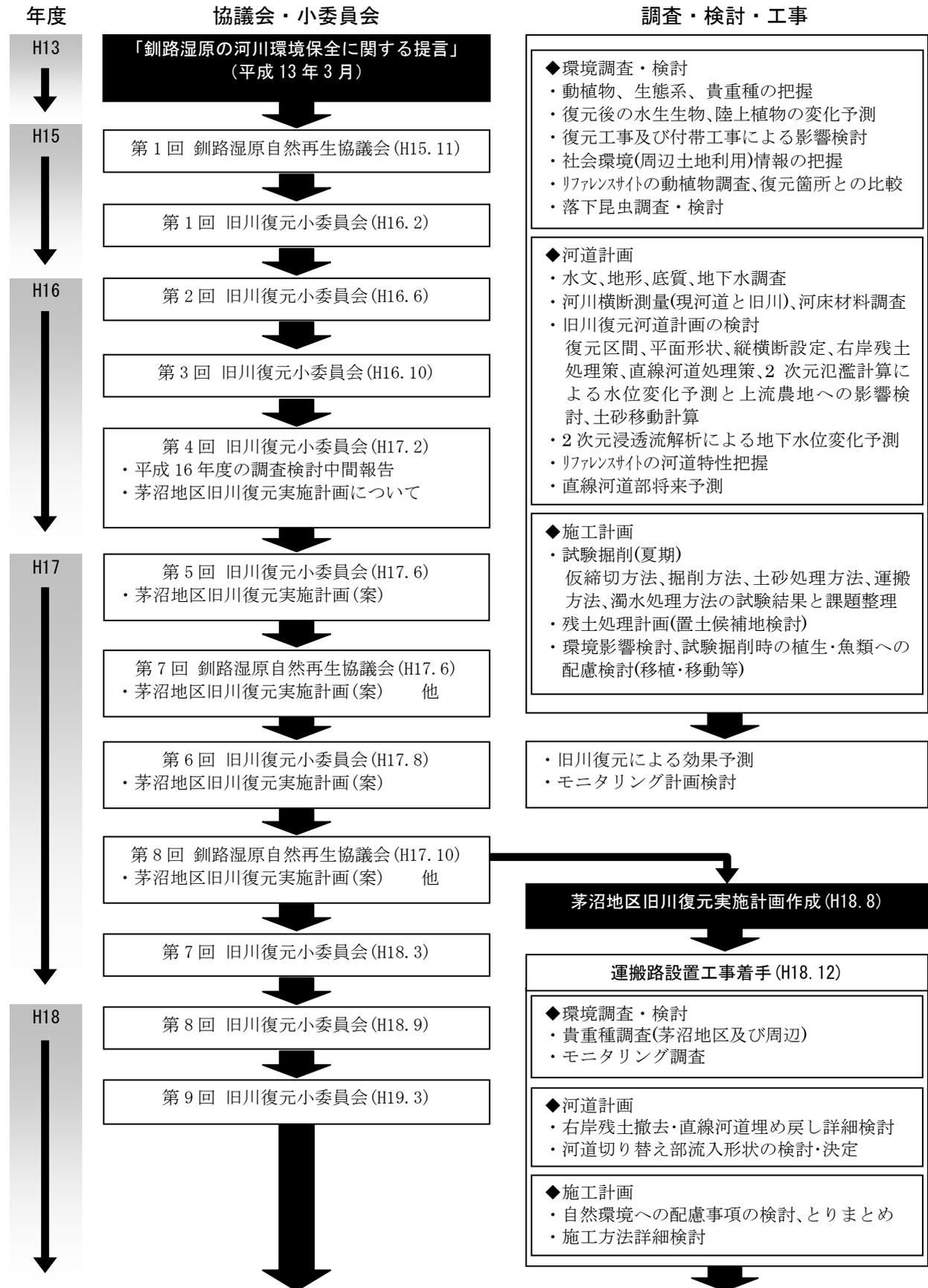
■関係行政機関(5機関)

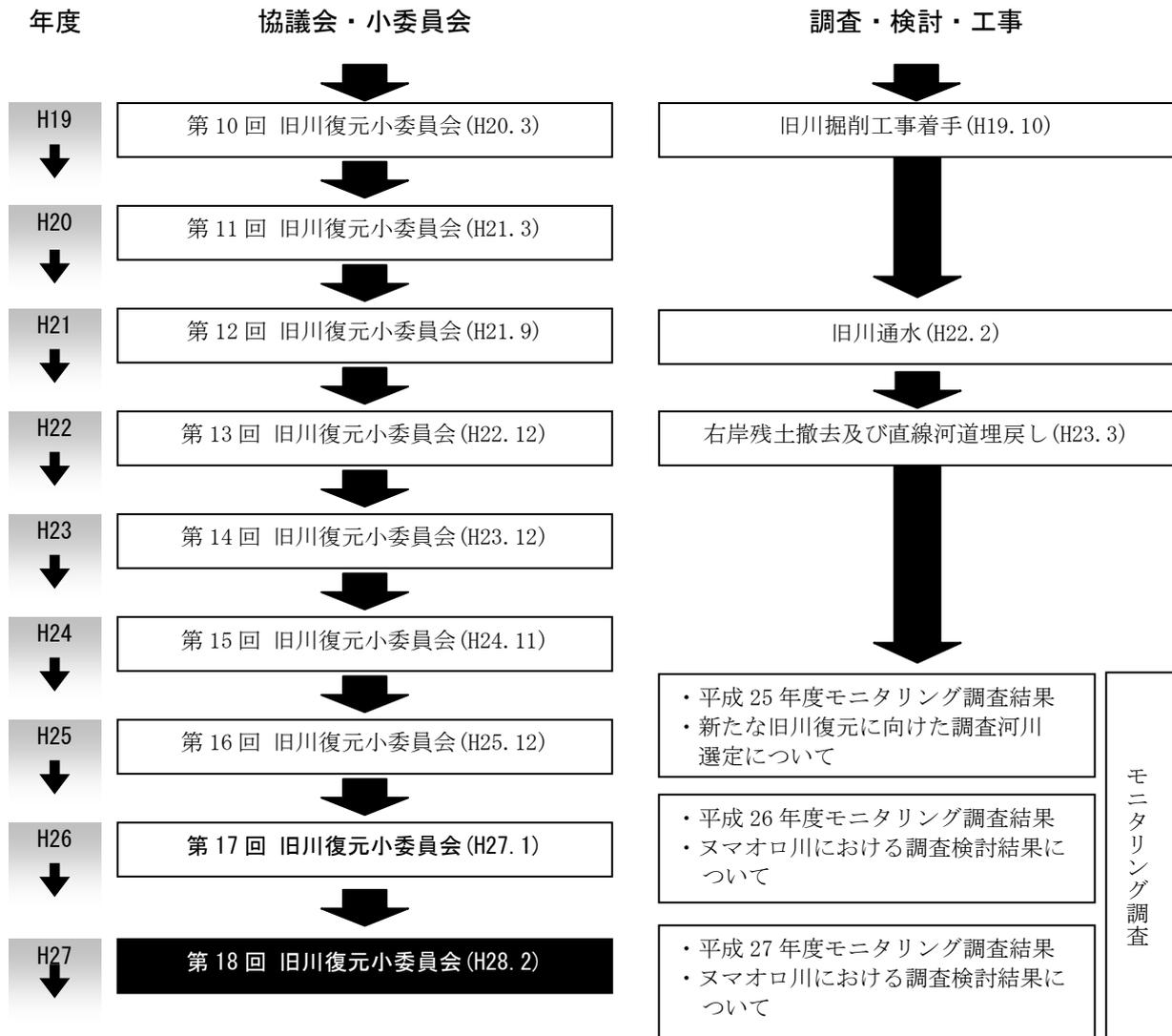
(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 敷土 勉
2	環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	標茶町	町長 池田 裕二
5	鶴居村	村長 大石 正行

※印 第7期(後期:H27.11~H28.11)新規登録

— 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画 —





◇前回の旧川復元小委員会での課題と今後の対応方針

表 第17回 旧川復元小委員会の課題（発言概要）と今後の対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針
平成26年度モニタリング調査結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・出水が発生する度に自然堤防が形成され、はん濫回数等が減少するのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然堤防が形成されるのは、数十年後だと思われる。 ・今後もモニタリングを継続して実施し、何らかの影響が見られる場合は柔軟に対応する。
ヌマオロ川における調査検討結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・水質調査を魚類、底生動物調査と同時に行うことで評価しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を参考に今後の調査項目の検討を進めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・計画段階から地元へ情報を提供し、合意形成を行った方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・標茶町役場や沼幌地域の振興会関係等に、適宜情報を提供するとともに協議を進め、合意形成を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌマオロ川の出水時の状況を把握しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出水時の状況について把握できていない。 ・今後、出水時の状況について記録を行い、データの蓄積を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・上流の導流区間が急勾配になっており、洗掘等の懸念がある。もうすこし緩勾配にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩勾配にすることは可能である。擦り付け区間等も含め、今後検討を進めていく。